

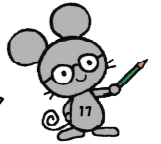
# 複式（算数科） 授業づくり講座

【教材・授業研究会】令和4年5月16日・7月1日 四万十町立川口小学校

発行  
令和4年10月  
中部教育事務所



こちらのQRコードから中部教育事務所HPにアクセスすると、これまでの他教科を含む授業づくり講座の記録がご覧いただけます！



領域 C(1) 量と測定についての理解の基礎

領域 C(1) 長さやかさの単位と測定

単元 第1学年 「どちらがながい」

単元 第2学年 「長さをはかってあらわそう」

## ◆単元のゴールで目指す子どもの姿

量の大きさについて、比べ方を考えたり、測ったりすることを通して、「端をそろえる」「他のものに置き換える」という見方・考え方を働かせ、直接比較、間接比較、任意単位による測定という比べ方を理解し、身の回りのものの長さを調べようとする姿。

## ◆単元のゴールで目指す子どもの姿

普遍単位の必要性に気づき、身の回りのものの長さを目的に応じた単位で的確に測定したり、比べたりするとともに、長さについての感覚を身に付け、生活に活用しようとする姿。

## Point 領域を揃えて取り組む！

川口小学校は完全複式となっている。そこで、年間計画を工夫し、同領域の単元を同時に行うことで、導入場面も揃えて行った。そうすることで、これまでの学習を振り返る場面や興味付けを少ない時間で行うことができた。

教師にとっては、教材研究の際、それぞれの学年で育成すべき資質・能力を明らかにするなかで、1年生の学びが2年生の学びにどのようにつながっていくのか、系統性を確認することができるという利点がある。

## ◆本単元で働かせる数学的な見方・考え方

身の回りにあるものの特徴などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考えたり、総合的・発展的に考えたりすること。

## ◆単元計画（全5時間扱い 本時1/5）

- 第1時 身の回りにあるものの長さの直接比較による比べ方を考える。（本時）
- 第2時 身の回りにあるものの長さを間接比較の方法で比べることができる。
- 第3時 身の回りにあるものの長さは任意単位のいくつ分として捉えることで、数として表したり、比較したりできることを理解する。
- 第4時 任意単位による長さの比較についての理解を深める。
- 第5時 評価テスト

## Point 体験を通した理解を！

### ◆具体物での比較を重視

1年生では、長さを比べる際に、直接比較、間接比較、任意単位による測定という3つの方法を使って問題を解決していく。単元を通して、実際に端を揃えたり、曲がったものは伸ばしたりする等、具体物を用いた比較を十分に行うことで、「長い」とはということなのか、理解できるようにすることが大切である。

## ◆単元計画（全8時間扱い 本時1/8）

- 第1時 身の回りのものの長さの任意単位による比べ方を考える。（本時）
- 第2時 普遍単位の必要性に気づき、長さを表す単位「センチメートル (cm)」を知り、測定の仕方を身に付ける。
- 第3時 1cmに満たない長さを表すのに新たな下位単位の必要性に気づき、長さを表す単位「ミリメートル (mm)」を知る。
- 第4時 物差しを目盛りの読み方を理解し、長さの測定の仕方に習熟する。
- 第5時 直線の意味を知り、同じ長さを、OcmOmmと、Ommの両方で表すことができる。
- 第6時 指定された長さの直線を、物差しを使って引くことができる。
- 第7時 長さの加減計算の仕方を理解する。
- 第8時 評価テスト



## 授業づくりのポイント～授業研究会より～

### 1. 複式を利点に！同時導入・同時終末

#### 同時導入

川口小学校は、1年生が1名、2年生が5名となっている。そのため、1年生は関わりを持つ場を確保しづらい。そこで、同時導入でそれぞれの学年の長さ比べの予想を一緒に行った。2学年が一緒に長いものを予想する問題から始め、それぞれに立場を持たせたとうえで、最後には結果を伝え合うことを知らせた。そうすることで、自分事として問題解決に向かえるようにした。



#### 同時終末

終末も同時に行うことで、それぞれの学びを伝え合うことができた。1年生は、実際に直接比較を行い、活動を通して調べた結果を2年生に伝えた。1年生は長さの比べ方を説明することができ、1年生の学びを2年生が認めることができていた。2年生も1年生に説明することで、任意単位を使った比較方法について、相手意識を持って、伝えることができた。



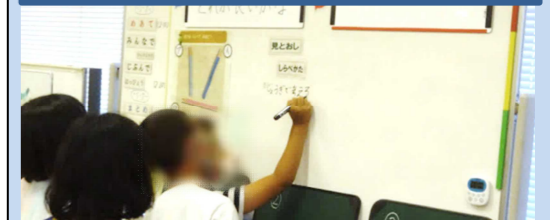
### 本時の流れ

第1学年	第2学年
学習活動	学習活動
1. 本時の課題をつかむ。	1. 本時の課題をつかむ。
どちらが長いでしょうか。	①問題を知る。 いちばん長いえんぴつはどれかな。
2. めあてを確認する。	②見通しを立てる。 ③長さの比べ方を考える。
ながさのくらべかたをかんがえよう。	2. めあてを確認する。
3. 課題を解決する。	いちばん長いえんぴつの長さはどれだけといえよか考え、発表しよう。
①比べ方を考える。 ②実際に比べてみる。	3. 課題を解決する。
4. 長さ比べの結果を発表し、学習をまとめる。	①長さの表し方を考える。 ②実際に測定する。
ながさのくらべかた・はしをそろえる・まっすぐにのぼす	4. 測定結果を発表し、数値の違いについて話し合う。
5. 練習問題に取り組む。	5. 学習をまとめる。
先生、終わりました！ わかりました！次の問題をしましょう。	長さがどれだけかを伝えるには同じものを使ってはかるとよい。
ペンを握らして、「終わったよ！」と合図を送り、意欲を継続する工夫があることで、1人でも学習に取り組めます。	6. 振り返りを書き、発表する。
6. 振り返りを書く。	
7. 振り返りの発表を2年生にする。	

※直接指導・・・ 間接指導・・・

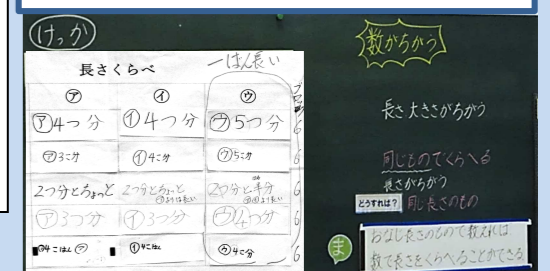
### 2. 話し合いの機を見てわたる

2年生は、間接指導の時間に学習リーダーが司会をし、比べ方について話し合った。直接指導で教師が子どもの意見を整理しながら、既習の任意単位で測定することを確認し、3つの長さを比べるためには数値化することが有効であることを押さえた。本時のねらいの達成に向けて、ポイントとなる部分では教師が関わり、方向づけていくことが大切である。



### 3. 任意単位の限界に気づかせていく

任意単位を決めて長さを測定する際、各々が別の長さのものを任意単位とすると、数値が異なる結果となったが、表に整理することで、それぞれの数値が異なっていることに気づいた。任意単位の幾つ分という数で表せたことは認めながら、長さが異なるのに数値が同じになっているところや、いくつ分とちょっとという表現のもどかしさを確認した。数々がはっきりとそろわないことから、みんなが同じもので比べる必要性に気づかせていった。共通のものを使い、共通の単位で比べることの必要性に気づかせることが重要である。



### 授業づくり講座の広がり

今回、1回目の教材研究会に参加した仁井田小学校が、教材研究会での指導案をもとに、事前に校内で研究授業を行った。そこには講座の授業者も参加し、共に協議を行っている。

複式校では、同学年に複数学級ある学校のように、同じ学年のほかのクラスで事前授業を行うことができない。今回のように参加校が事前に授業を行い、拠点校は実際の子どもの様子や反応を見ることで、授業改善につながる。参加校は、校内研修で年間計画の中に講座への参加を位置づけ、同指導案で研究授業を行えば、業務改善につなげることもできる。

### 参加者の声

- ・事前の教材研究や教材の準備がとても大事なのだと、改めて感じました。
- ・自校だけではできなかった考え方や児童の見方など、数多く学ぶことができ、日々の授業でも生かしていきたい。
- ・導入を同時に行うことで、両学年の意識を高め、振り返りにもつなげられるということが分かった。本校でも同時導入をやりたいと感じた。
- ・低学年の複式で、しかも1年生が1人の複式授業だけれど、1人にしない、1人を感じさせない工夫がたくさんあり、とても勉強になりました。複式授業ってやっぱり面白いと感じた授業研究会でした。